高校１年生　探究概要発表会

11 月 5 日（木）の 6・7 限に、高校 1 年生の探究概要発表会を行いました。生徒たちは、自分たちの探究テーマや今後の方向性、探究計画、調査方法などについて発表しました。今回も大学教授や専門家など 8 名の方を講師としてお招きし、ご指導いただきました。今年度から、高校の探究活動では 2 年間の継続研究に取り組んでいます。概要発表会の狙いは、最初の半年間の成果を講師の方々やゼミの仲間に伝え、助言を得ることで、今後の探究につなげることです。講師の方々からは、「着眼点が面白い」「問いがうまく立てられている」「机上にとどまらず、きちんと手足を動かして探究しようとしている」といったコメントをいただきました。一方、改善点として、「データの見せ方に工夫が必要」「調査対象の絞り込みが甘く、探究になるのか心配」「誰の困りを解決しようとしているのか、『顔』が見えていない」といったご指摘もいただきました。中学 3 年次に取り組んだ卒業研究のテーマを引き継いでいるグループもあります。こうしたグループは既に 2 年目の探究に取り組んでいるため、発表内容にも深みがあり、今後の広がりを期待させるものでした。高校 1 年生の探究がこれからどのように発展していくのか、大変楽しみです。

ある日の探究の授業中、実験室で調査に取り組んでいた生徒に「それを調べるとどうなるの？」と尋ねたところ、「それが分からないから調べるんです」と答えてくれました。当たり前の答えのようにも思えますが、その言葉には「探究とは何か」という問いへの答えが詰まっているように感じました。生徒から大切なことを学んだ瞬間でした。高校生にして、既に「研究者」としての気配を感じさせる生徒もいます。そうした生徒がいるグループの発表には、「ときめき」がありました。3 月 24 日の最終発表会でも、さらなる「ときめき」を見せてくれることを期待しています。





